

# 初年次教育におけるキャリア教育の成果と課題

白井 篤

2020年度に生活デザイン学科に入学した新入生に対して1年次後期の授業「生活デザイン演習B」において、オンラインを併用して実施したキャリア教育の成果と課題について報告している。キャリア教育を実施することで、キャリア教育の目的としてあげられている「キャリア設計能力」「キャリア・職業観」「キャリア・職業の選択」「職業・専門能力」の4つの中で、自らの将来・人生をおおまかにでもしっかりと設計できる「キャリア設計能力」を意識させる、きっかけ作りはできたと考える。言い換えれば、学士課程教育の動機付けを高めることは達成できたと考える。今回、実施した授業は、キャリア教育の導入部分にしか過ぎない。今後は、キャリア教育の視点を明確に位置づけた内容を含む授業を専門科目の中に入れ、常に学生が振り返り考えながら社会に出て行けるカリキュラム整備と、望ましい職業観を身につけさせる教育が必要であると結論づけている。

キーワード：初年次教育 キャリア教育 職業観 動機付け ワーク

## 1. はじめに

初年次教育とは、「高等学校から大学への円滑な移行を図り、大学での学問的・社会的な諸経験を成功させるべく、主として大学新入生を対象に作られた総合的教育プログラム」である<sup>1)</sup>。一方、キャリア教育は、「学生のキャリア発達を促進する立場(目的)から、それに必要な独自の講義的科目やインターンシップなどを中核として、大学の全教育活動の中に位置づけられる取組み」と定義されている<sup>2)</sup>。従って、初年次教育におけるキャリア教育とは、「高等学校から大学への移行期におけるキャリアと人生設計の決定に関わる成功へと学生を導くために、初年次におけるキャリア・人生プランづくりなどを通して、キャリア意識の醸成をはじめとするキャリア発達の促進を目的に行われるもの」である<sup>3), 4)</sup>。また、初年次教育におけるキャリア教育の意義として、(社)国立大学協会教育・学生委員会によれば、次のことを明

確にすることが求められるという<sup>2)</sup>。

- ①社会や職業社会への「移行期」にあたり、自らの将来・人生をおおまかにでもしっかりと設計できること(キャリア設計能力)
- ②職業生活の中で自分が何を実現しようとするのか、職業に対してどういう意味づけをするのか(キャリア・職業観)
- ③自分はどの道を歩むのか(キャリア・職業の選択)
- ④そのためには何をなすべきなのか(職業・専門能力)

これらの①から④を学生に意識させるため、1年次後期の授業「生活デザイン演習B」(1単位・必修科目)において、初年次教育の一環としてキャリア教育を実施したので、その状況並びに成果と課題について報告する。

## 2. 授業の概要

生活デザイン演習Bは、1年次後期に開設された演習科目で、生活デザイン学科の専門科目の中

で初年次教育の要素を含んだ科目である。この授業科目の12回の中の3回について、多くの大学でキャリア教育として実施しているプログラムを参考にして授業を行った<sup>2)、5)-11)</sup>。1年次の受講者は39名である。3回の授業を通したテーマは、「生活デザイン学科の学びと将来」とし、1回目は「資格」、2回目は「働くこと」、3回目は「社会人の先輩に聴くこと」という内容で行った。3回の授業全体の到達目標は、「同級生や卒業した先輩の話を通して、様々な生き方について知り、大学生生活の意義をより多角的に捉える」とした。1回目と2回目の授業は、オンラインで図1のように進めた。グループワークは、ブレイクアウトルームを使用して行った。全体ワークでは、学生全員が一度はグループの代表者となって発表するようにした。授業の中で教員が担当したのは、最初の授業の到達目標及びワークの説明と、最後の本授業の目的についての説明である。3回目の授業は対面で行い、卒業生の講演、質疑応答、振り返り、全体発表の順に実施した。なお、本授業の平常点は、提出されたワークについて、表1に示す観点及び尺度・段階からなるワークの評価方法（ライティング・ルーブリック）で評価することを学生に説明した。

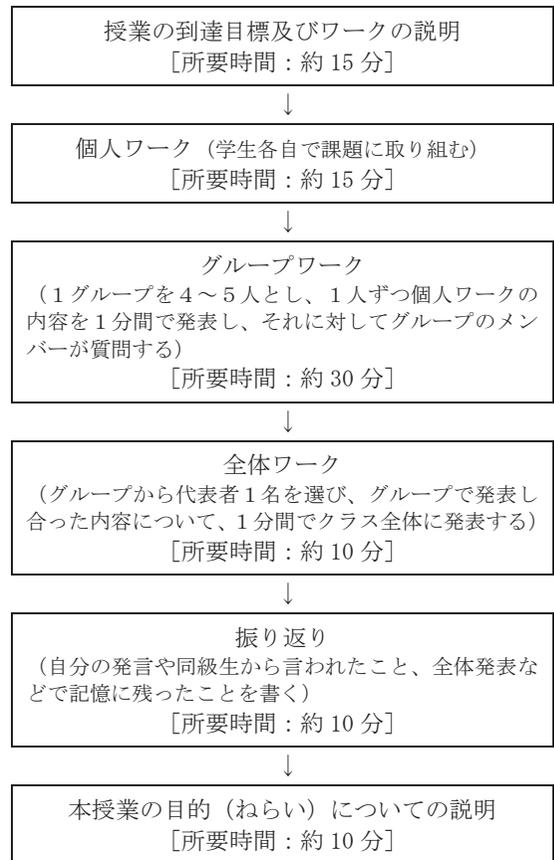


図1 授業の進め方

表1 ワークの評価方法（ライティング・ルーブリック）<sup>12)</sup>

観点 \ 尺度・段階	レベル 3	レベル 2	レベル 1	レベル 0
ワークの質問に対する記述	課題の回答が適切に書かれている。	課題の回答が書かれている。	課題とその回答にズレがある。	課題と関係ない回答を書いている。もしくは、何も書いていない。
文章の体裁 (文章を書く時の技術的な約束事) ①主語と述語が一致している。 ②誤字・脱字がない。 ③句読点の付け方が適切である。 ④常用漢字を使っている。	文章の体裁の項目に配慮ができている。	文章の体裁の項目のいくつかは配慮できている。	文章の体裁に配慮しようとしているが、不十分である。	文章の体裁が整えられておらず、読み進めることができない。

実施した3回の授業概要は次の通りである。

## 2-1 資格について

**到達目標**：「資格」を通してキャリアについて考え、説明できる。

- |      |   |
|------|---|
| ワーク1 | 資格取得のメリットは何だと思えますか。                                   |
| ワーク2 | あなたが知っている資格名を書いてください。                                 |
| ワーク3 | あなたが知っている資格名の中で、最も関心・興味のある（取得したい）資格について、取得方法を調べてください。 |
| ワーク4 | 最も関心・興味ある資格を取得すると、どのような仕事に就くことができますか。                 |
| ワーク5 | グループ発表や全体発表を含めて、本日の授業で記憶に残ったことを書いてください。               |

授業の最後に、本授業の目的について次のように説明した。授業のテーマとして「資格」を取り上げた理由としては、①身近にあるもの（取得しようと思えば、在学中にチャレンジできるもの）である、②あなた方には、大学生活の4年間で、自分の道を創っていきける力をつけて欲しい。言い換えれば、大学で決められた授業科目を学ぶだけでなく、自分の可能性を広げるために、いろんなことにチャレンジして欲しい。その最も分かりやすいことの一つとして「資格取得」がある。但し、資格取得と、就職や社会での活躍は、必ずしも同じとはならない、資格取得のための自主的な学びを通して、何かを得ること、そして、その得たものを今後、どのように活かしていくかが大切である。また、資格取得とは、自分自身の可能性を広げてくれる手段でもある。

次に、授業方法として、個人ワーク、グループワーク、全体ワークという3段階で行っている理由についても次のように説明した。個人ワークでは、先ず、自分で考えることが大切である。自主的に考える力を身につけたり、自分の考えを書いてまとめたりする力を身につけて欲しい。グループワークや全体ワークでは、同級生の考え方を知ったり、自分の知らないことを知ったりする情

報を共有する効果がある。また、自分の意見を同級生に正しく伝えたり、問いを持つ（質問する）力を身につけたりするなどのコミュニケーション力を向上させる効果がある。これら以外にもグループでの議論の進め方なども身につけて欲しい。

スピーチする時間を1分間にした意味についても次のように説明した。簡潔に話すには適当な時間である。1分間で起承転結を考えて話そうと思えばかなりの技術が必要であり、それを身につけて欲しいし、それに慣れて欲しい。1分間であれば、相手も耳を傾けてもらえるからである。

## 2-2 働くことについて

**到達目標**：「働くこと」を通して、自分のキャリアについて考え、説明できる。

- |      |   |
|------|---|
| ワーク1 | 「働く」とはどういうことだと思えますか。                    |
| ワーク2 | なぜ、そう思っているのですか。                         |
| ワーク3 | どのような働き方が理想的だと思いますか。                    |
| ワーク4 | 働くためには、どういう力が必要だと思いますか。                 |
| ワーク5 | グループ発表や全体発表を含めて、本日の授業で記憶に残ったことを書いてください。 |

授業の最後に、本授業の目的について次のように説明した。仕事と生活の軸足の置き方は、働く人によって、また、ライフステージによっても異なっている。「ライフ」の内容も、家庭生活だけでなく、地域活動、学習、ボランティア、趣味など様々なものがある。柔軟な働き方や多様な働き方が可能になっており、働く人も、企業も、より豊かな「仕事と生活の調和」を目指す取組が、現在の傾向となっている。このような傾向の中で自分自身の働き方について考えてもらいたくてこのようなテーマを出している。

## 2-3 社会人の先輩に聴く

**到達目標**：社会で活躍する卒業生の講演を通して、これからの進むべき方向について考

え、説明できる。

ワーク1 講演の要点は？
ワーク2 質問項目は？
ワーク3 本日の授業で記憶や印象に残ったことを書いてください。

卒業生からの講演の前に、本授業の目的について次のように説明した。いずれ皆さんも卒業し、社会に旅立つ日が来ます、目標設定が早い時期にできれば、「今以上に何を学習すべきか」「何を経験すべきか」が明確になり、そのことは、より充実した学生生活につながると考えるからである。

卒業生については、入社3年目から6年目の方を3人招いた。学生には卒業生の情報（勤務先、仕事の内容など）を前もって伝え、質問項目を考えてもらうようにした。

### 3. ワークの結果

#### 3-1 資格について

学生があげた資格取得のメリットの一例は次の通りである。自分の成長に関する記述と、就職や仕事に関する記述に二大別できる。

[自分の成長に関する記述]
・知識や実力の証明になる。
・自信になる。
・努力をアピールできる。
・目標を明確にすることができる。
[就職や仕事に関する記述]
・就活や専門的な仕事をする上で役立つ。
・資格を持っていないとつけない仕事がある。
・職業の選択肢が増える。
・収入アップやキャリアアップにつながる。
[その他]
・他人から信頼を得ることができる。
・生活に役立つ情報や知識が得られる。

学生が最も取得したい資格を表1に示す。建築関係の資格が全体の約6割を占めている。

表1 学生が最も取得したい資格（学生数：38名）

項目	回答数（人）
建築士	13
インテリアプランナー	5
インテリアコーディネーター	4
色彩検定	4
学芸員	3
衣料管理士	2
商業施設士	2
福祉住環境コーディネーター	1
生活園芸士	1
教員免許	1
秘書検定	1
販売士検定	1

#### 3-2 働くことについて

学生があげた「働くとは」の主な回答は次の通りである。収入を得るやお金を稼ぐなどと書いた学生が25名、社会貢献と書いた学生が15名、自分自身の成長のためと書いた学生が15名である。

・生活を送るために必要な収入を得ること
・社会貢献をしつつ、収入を得ること
・社会に貢献し、自分自身を成長させること
・生きるためや趣味のためにお金を稼ぐことや社会貢献のため
・社会に貢献し、それに見合った賃金を得ること
・自分自身や家族の人生を安定させるために高収入を得ること
・自分の持っている力を最大限に使い、社会に貢献するということ
・生きるため、自分に選択肢を与えて、自分の人生を有意義にするため
・自分の夢やしたいことを実現するため
・人・社会と積極的につながる

学生があげた「理想的な働き方」の主な回答は次の通りである。充実感が得られる働き方、働く環境が良好な働き方、自分が成長できる働き方、仕事とプライベートの両方共に充実するバランスの取れた働き方などの回答に分けられる。

- ・定時に帰れてそれでも十分暮らせる賃金がもらえるうえで、自分の興味のあるものに関する仕事に就けること
- ・仕事と子育てを無理なく両立できるような、仕事と家庭のバランスが取れた働き方
- ・仕事とプライベートがともに充実していると感じられる働き方
- ・社内の雰囲気が良く、頼れる上司や同期がいることが理想的だと思います
- ・個人個人の特性を理解し、できないことや苦手なこともお互いに助け合えて、なおかつ、平等に働ける
- ・目標や目的をもって取り組み、楽しいと思える瞬間があること
- ・自分が今までに培ってきたものを活かしながら働けたら良いと思う
- ・人の役に立っていると実感できる働き方が理想的だと思う
- ・好きなことややりたいことを仕事にでき、その中で自分自身がその企業の中で成長できる働き方

学生があげた「働くために必要な力」の主な回答は次の通りである。コミュニケーション力が最も多く23名、協調性が14名、判断力7名、行動力4名、向上心、傾聴力、伝達力などが2名である。働くためには人との関係が大切であると考えている学生が多い傾向にある。

- ・一緒に働く人とのコミュニケーション力
- ・上司と同僚との関係をうまく処理するためのコミュニケーション力
- ・沢山の方とお話しする機会が増えるのでコミュニケーション力が必要になってくると思います。
- ・自分の意見をわかりやすく伝える力
- ・どんな問題が生じても柔軟に対応できる判断力
- ・自ら考え、自ら動く力＝行動力
- ・自分だけではなく一緒に働いている仲間とお互いに助け合い協力しながら働く力
- ・相手の意見を丁寧に聞ける力
- ・意見の違いや立場の違いを理解する力
- ・仕事を続ける力
- ・常に、向上心を持って取り組んでいく力
- ・失敗から課題を見つけてそれを直せる力

### 3-3 社会人の先輩に聴く

卒業生の講演を聴いての感想の一例は次の通りである。大学で学ぶことの意味やこれからの大学生活での学び方についての感想が多い。

- ・大学で学べることは勉強だけではないため、いろいろな体験をしておくことが大切だと思った。自分のやりたいことや好きなことを中心に生活できるのは今だけだから、時間の使い方などを考え直したいと思う。
- ・前回までの授業でも、就職活動について身近に感じていたけれど、今日、実際に先輩方のお話を聞き、今、この時が、本当に大切だと感じた。4年生になってから、「あの時、しておけば良かった」など、後悔をしないためにも、今、何が必要なのかということも、もう一度、考えたいと思う。
- ・卒業生3名の方が共通して「学生生活を楽しむ」ということを言っていて、自分が想像していたものより、社会人は自分の時間がなく、忙しことが分かった。今、自分が気になっていたことも話して頂き、自分も将来は、このようになっていきたいという理想像を、話を聞きながら考えることができ、とても濃い時間を過ごせた。

3回の授業の最後に、「本授業〔生活デザイン学科の学びと将来〕を受ける前と受けた後の変化はどのようなものだったでしょうか」という課題を出した。その回答の一例は次の通りである。

- ・授業を通して、仕事や働くということを身近に感じる事ができた。
- ・将来就きたい職業を選択する際の視野が広がった。
- ・取得のためにした勉強などの過程、経験が最も重要だと気づく事ができた。
- ・授業を受ける前までは、資格についてやこれからどういった授業を受けた方がいいのか等をあまり分かっていませんでしたが、この授業を通して知ることができ、考えるきっかけにもなり、少しずつ自分が今やるべきことが見えてきたと思う。
- ・今回の授業を受けて、資格や将来のことについて学科全体で話したり、先輩のお話を聞くことができて、不安が少し軽くなった気がする。結局、将来のことを不安に思っていたのはみんな同じで、自分だけではないと知れたからだと思う。
- ・3回の授業を通して授業を受ける前よりも大学4年間の中での学ぶべきことややりたいこと、そして、卒業後のことをより深く考えるようになった。
- ・今まであまりはっきりと将来のことを考えていませんでしたが、3回の授業を通して具体的に学生生活をどのように送るのかなどを考えるようになった。

図2には、この回答結果から、キャリア教育の意義としてあげられている「キャリア設計能力」「キャリア・職業観」「キャリア・職業の選択」「職業・専門能力」について、意識させることができたかを示す。「キャリア設計能力」については、「将来についてしっかり考えていくべきだと思うようになった」「就職はまだ先のことだと思い、考えたことはなかったが、この授業を受け、身近なものに感じた」などの「将来の方向性について考えている記述」を抽出した。「キャリア・職業観」については、「働くことはただお金を稼ぐことと考えていましたが、社会貢献の意味もあるのだと意識が変わりました」「働くということは私の中では生きていくためにしなければならないことという考えだけでしたが、大学4年間で得た知識を生かす場でもあるという考え方をするようになった」など、「生計維持の手段」「個性発揮の場」「社会的役割の実現」に関する文言が入っている記述を抽出した。「キャリア・職業の選択」については、「正社員として働き続けたい」「どのような会社に就きたいかなどの具体的な理想ができました」など、「職業そのもの」や「職業を取り巻く環境」に関する文言が入っている記述を抽出した。「職業・専門能力」については、具体的な職業（職種）をあげて、その職業につくためにはどのような専門的な能力をつけたいかについて書いている記述を抽出した。その結果、38人の回答のうちの30人（8割近くの学生）から「キャリア設計能力（自分の将来をおおまかにでもしっかり設計しながら大学生活を送りたい）」という回答を得た。しかし

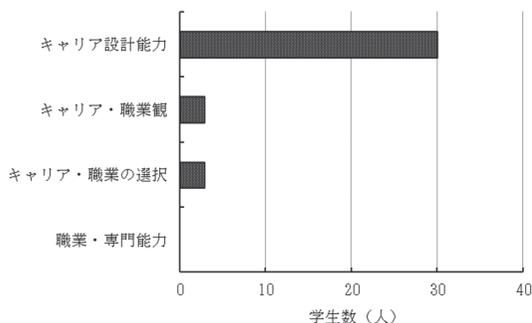


図2 学生に動機付けできたキャリア教育の状況

ながら、「キャリア・職業観（職業生活の中で自分が何を実現しようとするのか）」及び「キャリア・職業の選択（自分は何の道を歩むのか）」を意識していると思われる回答はそれぞれ3名と少なく、「職業・専門能力」を意識した学生はひとりもいない。今後は、自分は何の道に歩むのか、そして、その道を歩むためには何をなすべきかについて意識させる内容を授業に取り入れるなどの工夫が必要である。

なお、学生が提出したワークについては、ライティング・ループリックに従って評価した結果とコメントをつけて、返却した。コメントを書く上で配慮した点は、学生を勇気づける（やる気を出させる）文言とした。

#### 4. おわりに

本授業で実施したワークの結果並びに、3回の授業終了後の課題「本授業〔生活デザイン学科の学びと将来〕を受ける前と受けた後の変化はどのようなものだったでしょうか」の回答から得られた知見は次の通りである。

- ・学生に対して、キャリア教育の意義としてあげられている「キャリア設計能力（自分の将来をおおまかにでもしっかり設計しながら大学生活を送ること）」を意識させる、きっかけ作りはできたと考える。言い換えれば、学士課程教育の動機付けを高めることは達成できたと考える。

次の段階としては、以下の2つが言える。

- (1) 学修者である学生が、今回のキャリア教育を通して学んで得たものを確認できるような取組が必要である。そのことは、現在の到達点を学生に自覚させ、次に進むべき道や足りない部分を考えさせることにつながる。
- (2) 今回、実施した授業は、キャリア教育の導入部分にしか過ぎない。課題としては、キャリア教育の視点を明確に位置づけた内容を含む授業を専門科目の中に入れ、常に学生が振り返り、考えながら社会に出て行けるようなカリキュラム整備が必要である。また、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技術を身につけさせると共

に、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育が必要である。

#### 参考文献

- 1) 中央教育審議会：学士課程教育の構築に向けて（答申）、2008年12月、pp.1-58.
  - 2) 社団法人 国立大学協会 教育・学生委員会：大学におけるキャリア教育のあり方ーキャリア教育科目を中心にー、2005年12月、pp.1-29.
  - 3) 松本 浩司：初年次教育におけるキャリア教育の意義と課題、教養と教育（愛知教育大学共通科目研究交流誌）、第10号、2010年、pp.18-23.
  - 4) 濱名 篤：初年次教育からみた教養教育・キャリア教育、大学教育学会誌、第28巻、第1号、2006年5月、pp.46-52.
  - 5) 朴 美善：オンラインによる初年次キャリア教育の成果と課題、城西大学経済学部オンライン初年次教育実践報告集、2020年9月、pp.8-12.
  - 6) 岩井 洋、奥村 玲香、元根 朋美：プレステップキャリアデザイン<第4版>、弘文堂、2017年9月、157p.
  - 7) 齊藤 博、上本 裕子：大学1年からのキャリアデザイン実践、八千代出版、2017年3月、89p.
  - 8) 寿山 泰二：社会人基礎力がつくキャリアデザインブック-社会理解編-、金子書房、2015年8月、98p.
  - 9) 寿山 泰二：社会人基礎力がつくキャリアデザインブック-自己理解編-、金子書房、2017年3月、96p.
  - 10) 且 まゆみ：自立へのキャリアデザイン、ナカニシヤ出版、2017年9月、94p.
  - 11) 松田 剛典、佐伯 勇、木村 亮介：大学生のためのキャリアデザイン はじめての課題解決型プロジェクト、ミネルヴァ書房、2019年4月、133p.
  - 12) 関西国際大学：コモンルーブリック（ライティング）1年生春学期～2年生春学期（下位学年用）、2012年4月.
- 
- (受付 2021.3.25 受理 2021.6.24)